

## 第5回 桐生市総合計画審議会 議事要旨

○日 時 令和元年6月17日(月)午後1時30分～午後4時25分

○場 所 桐生市役所 6階 605会議室

○出席者 35名

### 【審議会】14名

会 長：群馬大学大学院理工学府 特任教授	宝田 恭之
副会長：桐生市総合教育会議 教育委員	新居 理恵
委 員：桐生商工会議所 会頭	山口 正夫
桐生市区長連絡協議会 副会長	田所 武男
きりゅう市民活動推進ネットワーク 代表	近藤 圭子
桐生市社会福祉協議会 副会長	塚田 征子
桐生市子ども・子育て会議 会長	尾花 悦子
桐生市医師会 理事	鈴木 康郎
桐生市まちづくり検討委員会 委員	金井 昌信
桐生市婦人団体連絡協議会 会長	鈴木 英子
新里地域懇談会 会長	松島 孝三
黒保根地域懇談会 会長	金子 敬
公募市民	奥村 千鶴子
公募市民	河村 英輝

(欠席者)

委 員：桐生市農業委員会 会長	鎌塚 大作
桐生市環境先進都市将来構想推進協議会 委員	佐羽 宏之
桐生青年会議所 理事長	葉山 勇

### 【桐生市】20名

市長	荒木 恵司 ※挨拶後退席
＜事務局＞副市長	鳥井 英雄
桐生市総合政策部長	和佐田 直樹
桐生市総合政策部企画課長	田島 規宏
桐生市総合政策部企画課企画担当係長	金子 貴征
桐生市総合政策部企画課企画担当	小松 直也
桐生市総合政策部企画課企画担当	村田 健太
桐生市総合政策部企画課総合戦略推進担当	馬場 秀穂
＜担当部課長＞	
桐生市保健福祉部長	大津 豊
桐生市保健福祉部長寿支援課長	小山 敏恵
桐生市保健福祉部福祉課長	山形 啓子
桐生市保健福祉部子育て支援課長	西條 敦史
桐生市保健福祉部医療保険課長	稲森 富士子
桐生市保健福祉部健康づくり課長	宮地 敏郎
桐生市保健福祉部主幹	船越 正枝

桐生市産業経済部長  
桐生市産業経済部産業政策課長  
桐生市産業経済部観光交流課長  
桐生市産業経済部農業振興課長  
桐生市産業経済部林業振興課長

新井 利幸  
関口 宏  
山田 和彦  
登坂 良男  
天沼 富彦

【計画策定支援事業者】 1名  
株式会社ぎょうせい

【傍聴者】 なし

【報道機関】 1社

○会議内容

1 開会 [ 開始：午後1時30分 ]

- ・事務局より、過半数以上の委員の出席により会議が成立することを報告。

2 会長挨拶

- ・宝田会長より挨拶。

3 市長挨拶

- ・荒木市長より挨拶。

4 議題

- ・議事進行は、桐生市総合計画審議会規則第4条の規定により、会長が議長として行う。

(1) 「(仮称) 次期桐生市総合計画」基本構想素案について

- ・資料19・20・22に基づき、事務局より説明。
- ・意見、質疑応答は以下のとおり。

<p>会長</p>	<p>前回会議後、正副会長と事務局で話し合いを重ね、本日、候補案を出させていただいた。私としては、「未来を紡ぐ」については玉村町が、「潤いのまち桐生」については昭和61年にすでに使用しているという2点が気になるところはある。また、これまでの「伝統と創造 粋なまち桐生」の評価が高く、これを乗り超え払拭するのが難しいというところもある。このような状況ではあるが、その他の案にある「伝統と創造、感性育む 粋なまち桐生」や、「感性育み」を除いた「伝統と創造、粋なまち桐生」といった案ではこれまでとあまり変わらないため、少し新鮮味を出すという意味合いで、今回、「感性育み 未来紡ぐ 潤いのまち桐生」を候補案とさせていただいた。中にはこれまでと同じで良いという意見もあるが、皆様のご意見をお聞きしたい。</p>
<p>委員</p>	<p>コンパクトにまとめていただいたが、市民感覚としては桐生らしさが見えなかったところが残念である。「潤い」はまちづくりの中でイメージしづらい。「紡ぐ」で織物のまちを意識した。「潤い」に代わる桐生をイメージできる力強い言葉があればと思う。</p> <p>「紡ぐ」は玉村町で使われているということだが、桐生らしさでいうと「織りなす」も捨てがたい。特に中高年は「織物のまち」に誇りを持っており、桐生らしさを感じる言葉を入れたい。自分中心の人が増える中、「感性育み」は捨てがたい。</p>
<p>委員</p>	<p>「潤い」に対して批判的な話があったが、市外から見た時の桐生の良さは「潤い」である。桐生のゆったりとした時間の流れや、山が見え、川がある自然の豊かさ、そこから導き出されるこころの潤い。非常に琴線に触れる言葉だと感じる。内(ネイティブ)から見た感覚と違うかもしれないが「潤い」というのは一番のポイントである。</p>
<p>委員</p>	<p>同意見である。SDGsのバックキャストで将来これを目標にしていこうということであり、市外から来ると街中にこんなに自然が豊かなところ</p>

	<p>はなかなかなく、「潤い」という言葉に違和感はない。市民は気づいていないのではないか。ビジョンというものはある程度主観的な要素が必要。2030年を目指したこの計画の上では、一つのテーゼとして良いのではないか。</p>
委員	<p>結ぶ言葉として「未来織りなす」を入れ、「感性育み 未来織りなす 潤いのまち桐生」とすると桐生らしさも入り、「潤い」という言葉で自然豊かな桐生がイメージとして伝わってくる。未来を創っていくという意味の「未来織りなす」を入れると良いと感じた。</p>
会長	<p>昭和61年の状況は詳しく知らないが「潤いのあるまち」は古いということになるのか。副市長、いかがか。</p>
事務局 (副市長)	<p>「潤い」の意味合いが「贅沢な時間や空間を味わうことができるまち」だとすると、それを十分に理解いただかないと潤いの中身がわからないのではないか。既に豊かな自然、時間がゆったり流れる「潤い」のあるまちになっている。それをどのように市民に感じてもらえるかということは必要だと思うが、将来目標というより現状の桐生になってはいないか危惧している。</p> <p>「感性を育む」については素晴らしいと思う。五感を磨くとか五感でまちの良さを感じられるようなまちにするべきだという意味で、良いフレーズだと思う。</p>
会長	<p>「粋なまち桐生」は非常に評価が高く、桐生らしさが表れているがこれに関してはいかがか。</p>
委員	<p>「潤い」については、アンケートからも多くの市民が山紫水明の豊かな自然を感じていることがわかる。これについては環境推進都市の取組など将来にわたってすべきことである。</p> <p>「感性」については、1300年の歴史と伝統のある織物で始まったまちであるが、これからの産業は感性豊かな新しい産業になっていくのではないかと感じている。桐生商工会議所では、ファッションタウンという運動をしているのだが、街並みをきれいにし、その中で感性豊かな子どもが育ち、その子どもが新しい感性豊かな産業を興していくというのが究極の目標。</p> <p>「粋」は「感性」や「ファッション」に通ずるところがある。</p> <p>前々回が「ハイテクとファッションの街」、前回が「伝統と創造 粋なまち桐生」であったが、「ファッション」が「伝統」、「ハイテク」が「創造」と流れを汲んでいる。目標があまり変わる必要はない。「感性育み」が豊かな自然ということなのかかわからないが、非常に良いフレーズだと思う。</p>
委員	<p>「感性育み」は残し、「未来織りなす」のあとに「粋なまち桐生」と繋げたら良いと思うがいかがか。</p>

委員	<p>「潤い」も良いと思ったが副市長がおっしゃるように、もともとあるものである。「潤い」を使って感性を育むと考え、基本テーマの「“感性”を育むまちづくり」の中に、「潤いのあるまちの特性を生かして感性豊かな子どもを育てていく」というようなことが入れば、「潤い」は将来都市像のキーワードになくともよいのでは。そう考えると「感性育み 未来織りなす 粋なまち桐生」でまとまっているのではないか。</p>
会長	<p>確かにテンポや語呂がよい。「粋なまち」に桐生らしさや心意気といったものが感じられる。</p> <p>「感性育み」というのは、これからの未来の社会をつくっていくための基本である。学術においても、これまでのように機能効率だけで技術開発をするのではなくて、感性は物事の本質を見極める感受性であるので、これを生かして技術を磨いていこうと少しずつ動いているところで、いち早く桐生が先陣を切るというのは、非常に嬉しいことである。</p> <p>「感性育み 未来織りなす 粋なまち桐生」、これでよろしいか。</p>
	一同承認。
会長	続いて基本構想全般について協議したいが何かあるか。
委員	<p>第2章「1 財政の見通し」の最後「効率的かつ効果的な行政経営」とあるが、全体を見ると「行政経営」と「行政運営」の表記がある。事務局で整合性をとってほしい。</p> <p>「2 土地利用の方針」3行目「時間的・空間的にランダムに発生しスポンジ化が進行している」について、こういった専門的な表現になるのか。また、下から9行目「適正な土地利用の規制・誘導」というフレーズについて、適正な方向に誘導していくことはあると思うが、通常、規制という言葉は不適正なものに対して使われると思われる。そのあたりはいかがか。</p>
事務局 (企画課長)	1点目の「行政経営」と「行政運営」についてはおっしゃるとおり。「1 財政の見通し」の「行政経営」については、先般策定された行政改革方針の中で、行政経営、民間の感覚を取り入れることが必要だと強くうたわれている。全般を通して使い分けがなされているか再度確認する。
都市計画課長	<p>「2 土地利用の方針」の「時間的・空間的にランダムに発生しスポンジ化が進行している」については、国土交通省の表現を利用したもののだが、一般市民にもわかりやすい表現に修正する。</p> <p>「適正な土地利用の規制・誘導」については、現在、桐生地区では、例えば「商業地区」など用途によって規制がされている。そういった意味で使っている。誘導についてはコンパクトシティとの関係があり、ある程度、集約と誘導をするということでこういう使い方をした。</p>
委員	追加配布資料については、第2章「1 財政の見通し」において具体的な数字のイメージを持ち、審議員の中で情報・意識の共有をするために事務局へ依頼させていただいた。

会長	基本構想全般についてはこの内容でよいか。
	一同承認。

(2) 「(仮称) 次期桐生市総合計画」基本計画素案について

- ・資料 21 に基づき、事務局より説明。
- ・「(仮称) 次期桐生市総合計画」策定に向けたアンケート調査結果について金井委員より説明。
- ・意見、質疑応答は以下のとおり。

会長	アンケート調査結果について、現在の幸福度の平均点が 6.11 というのは一般的に見ていかがか。
委員	10 点満点で問うと、日本人はだいたいこのくらいになる。

① 1 章 産業経済の振興

- ・意見、質疑応答は以下のとおり。

会長	それでは基本計画 1-1「農林業の活性化」について何かご意見はあるか。
委員	近郊自治体と比べて休耕地が多いように思われる。休耕地の利活用についての現況と課題をお伺いしたい。また、課題として挙げるのならば、その解消についてどのように施策に反映されるのかお聞きしたい。
農業振興課長	確かに中山間地域である桐生市は小規模農地が点在していることもあり、遊休農地が多い。そのため、特に黒保根地区や市街化調整区域では、農家を続けられない場合に新しい耕作者を見つけることは難しい。農業委員を通じて、休耕地の幹旋や点在農地の集約による規模の拡大を促すなど問題の解消に努めている。農業振興地域である新里地区では、県の組織である中間管理機構で、休耕地の幹旋や貸借の情報提供などの取り組みを行っている。
委員	それについては基本計画に記載されるのか伺いたい。課題として認識し、施策も実行しているとのことだが、「現況と課題」の 1 つ目でそれが読み取れないため、追加を検討いただきたい。
産業経済部長	「現況と課題」の 1 つ目で、意欲ある担い手に農地集積を行うことで育成に努めるという部分で、先ほど説明したことを表現しているが、内容に不備があれば修正したい。
委員	目標指標「認定農業者数」と事業者数になっているが、休耕地面積の減少や農地集積率などが目標指標に入ってもよいのではないか。カウントが難しいのか、あるいは事業者の数だけで十分目標達成の評価ができると考えているのか。

産業経済部長	「1. 農業の活性化」の目標指標「担い手への農地集積率」が、意欲ある担い手へどれだけ農地を集積し、事業を発展継続させたかの指標であると考えている。
委員	林業をしていた祖父母も父も亡くなったが林業は継いでおらず、自己が所有する山林の範囲がわからないという知人がいる。わかる人がいるうちに区画をはっきりさせてほしいと言っていた。
林業振興課長	今年度から森林環境譲与税が始まり国から譲与されるが、その譲与税で、林業経営を続けていくか意思表示の調査や山林の境界確認、また山林整備を順次行っていく計画を立てている。
会長	では次に「1-2 商業の活性化とにぎわいづくり」に移りたい。いかがか。
委員	「1. 商業環境の整備」で新規に開業した店舗数を目標指標としているが、開業しただけでなく、その後どれくらい長く継続できているかを指標とすることはできないか。開店サポートの予算措置はあるが、その後の支援があるのか、可能性も含めてお聞かせ願いたい。
産業経済部長	「1. 商業環境の整備」については開業した店舗数を目標指標としているが、「2. 市街地のにぎわいづくり」で中心市街地の空き店舗率を指標としている。商店全体の中での空き店舗率が低くなれば商店が増えているということなので、この指標で全体の推移を見ることができると考える。
委員	目標値の数字はもう少し頑張れないものなのか。
産業政策課長	確かに空き店舗率は控えめな目標となっている。最近は帽子やストールの店など新規店舗も出てきたが辞めていく店舗が多い。何もしなければ減っていく現状の中で、少しでもプラスに転じたいと、こういう数値を設定した。
会長	では次に「1-3 企業立地の推進」に移りたい。何かご意見はあるか。
委員	最近は工場でのフルオートメーション化が進んでおり従業員はそれほど必要ではなくなっている。予算を費やし立地を整備し企業を呼び込んでも工場の内容によっては雇用者数が伸びない場合もあるのではないかと。目標指標の「工業団地での雇用者数」については、現実的な数値となっているのか。
産業経済部長	新里の武井西工業団地で実際に誘致した企業数と新たに発生する雇用者数を載せている。企業誘致を決定する際の審査基準には、地域への貢献として雇用者数も含まれており、申請時に雇用予定者数の聞き取りを行っているため実数に近いと考えている。

委員	例えば、間接部門の多い本社を誘致する考えはないのか。
産業経済部長	固定資産税の優遇制度を用意して本社の誘致にも努めている。本社を地方へ誘致することは難しく実績はないが、今後も積極的に取り組んでいきたい。
会長	では次に「1-4 雇用・労働環境の充実」に移りたい。ご意見はあるか。
委員	「1.雇用の確保と安定化」の目標指標「合同企業説明会参加者数」とは11月に相生の体育館で開催されているマッチングのことか。
産業政策課長	合同企業説明会は、大学・短大・専門・専修学校の来春卒業予定者を対象に毎年4月に行っている。生徒には地元企業を知る機会となり、企業にとっては雇用者を見つけられる場である。商工会議所やハローワークの協力を得て実施している。
会長	では次に「1-5 地域産業の活性化」に移りたい。ご意見はあるか。
委員	「1 中小企業の経営基盤強化」の目標指標「創業者創出数」において、毎年の目標値を、基準値「21」の倍の「40」としているが、何か根拠があるのか。
産業政策課長	現状では「21」という実績があるが、現在本町5丁目にコワーキングスペースとインキュベーションオフィスを設けている。これらを拡充し利用者を増やし、そういった人にまちなかに店舗を構えてほしいという思いで設定した数字である。
産業経済部長	創業者創出数は年度によって大きく上下する。基準値「21」は2018年の数値であるが、2017年は「42」であった。高い頃の数値を目標とし、それをクリアしていきたいとして設定した。
委員	地場産品を紹介するスペースが桐生駅と新桐生駅にある。新桐生駅は外から来た特急待ちの人が長時間滞在するにもかかわらず、ガラス張りのケースは古臭い時代の匂いをととても感じる。桐生大学デザイン学科の生徒を巻き込んで令和の時代にあったディスプレイにしたらどうか。せっかく良い商品が並んでいるのだから。是非改善をお願いしたい。
産業政策課長	新桐生駅、桐生駅の物産展示スペースについては、桐生市の物産振興協会の管理となっているが、毎年の積み立てが貯まったら近代的なディスプレイに変えていきたいという意向はあるようである。
会長	では次に「1-6 観光の振興」に移りたい。ご意見はあるか。
委員	例えばインバウンドで必要とされる無料 Wi-Fi を指標とするのはどうか。他には、重伝建を回る MAYU の乗車人数、SNS での「いいね」数などで



	も測れるのではないか。定量的な方法で測れる指標を提案する。
観光交流課長	インバウンドを定量的に示す数値は現段階では掴めていない。例えばキャッシュレス決済なども考えられると思うが、桐生市では定量的に測れるものが今のところなく、どの程度の効果があるのか測りかねている状況である。MAYUについては、昨年2月にコースを見直し、これまでまちなかを周遊するコースだったものを新桐生駅まで周るコースとした。運行距離が長くなり人数は激減している。ただ1回あたりの乗車率は変わらない。絶対数はコースが長くなると減ってしまうため、指標として使うにはふさわしくないと考える。SNSについては、現状で「いいね」の数を把握していないため、検討させていただきたい。
産業経済部長	先ほどの1点目の質問である無料Wi-Fiについては、新しく作られる「(仮称)観光情報センター」に設置したいと考えている。しかし、無料Wi-Fiの設置が観光の振興に直接結びつかないと思うため、指標として使うのは難しいと考える。MAYUについては新たな観光情報センターを作る際に運行コースを考えていきたい。指標として扱うかについてはまた検討したい。SNSに関しては「現況と課題」の中でも「SNSによる情報拡散、情報発信機能を強化」と課題として取り上げているが、指標とするのは難しいと考える。
委員	「1.観光客誘致の推進」の目標指標に「市民主体のイベントへの共催、後援数」とあるが、市民主体のイベントは数多くあると思うがその中で共催・後援はこれだけだったということなのか。
観光交流課長	基準値の2018年10件は観光交流課で把握している実績数である。
委員	市全体の後援ということではなく、観光交流課による後援ということか。それであれば今後観光のイベントを行う時には観光交流課に声をかけるようにしたい。
産業経済部長	これは、市民が主体的に行う事業・イベントを市がバックアップする形が今後の観光行政において望ましい形と考え、指標としたものである。
委員	近隣市では越県になるが足利市と歴史や織物のまちなど共通する部分が多く、観光について連携して取り組んでいると聞いている。今後も推進していただきたい。
産業経済部長	観光については市単独ではなく、近隣市との連携が大切と考えており、足利、前橋、みどり市、太田など周辺自治体と連携して事業展開をしていきたい。
委員	市の目玉となる観光がない。来年度に民生・児童委員の全国大会が高崎市でのGメッセで行われ、全国から4,000人のお客様が群馬に来る。それに合わせ桐生市の観光PRをしていただきたい。また、別の話になるが、先日、

	<p>八ッ場ダムへ行ってきたところ、東吾妻町の原町日赤の通りが賑やかであったが、桐生にはそういったところがない。お客様を呼べる桐生の特色を生かした観光拠点が一つ必要である。</p>
産業経済部長	<p>1点目のGメッセは県が事業展開しているものであるが、Gメッセへ来たお客様にいかにして県内の市町村へ足を延ばしていただけるかが経済的波及効果を考えると大きいと思うので、県と連携して桐生市のPRをしっかりとしていきたい。2点目については、確かに桐生市は1か所に集中した観光拠がないかもしれない。素晴らしい観光資源はあるが、それらがうまく繋がっていない部分はあるかと思うので、こういった声を生かして事業展開していきたい。これから作られる観光情報センターをハブとして全体の情報発信などを行い、桐生の素晴らしさを伝えていきたい。</p>
委員	<p>目標指標に観光入込客数とあるが、「現況と課題」の3点目に「まつりなどのイベントを観光資源として」とあるので、難しいかとは思いますがイベントごとの来訪者を数字で表してみたらどうか。先ほど、桐生市は閑散としているという話があったが、確かに平日に全体を見たら閑散としているが、時期と場所を合わせると局所的に人がたくさんいるところはある。土日の遊園地や第一土曜日の本町1・2丁目辺りは歩くのが怖いくらいである。365日24時間桐生市の街並みを潤すことは不可能なので、既存で地域の人が頑張っているイベントをきちんと評価するためにイベントごとの集客数を指標として持てないか。主催者側も張り合いになると思うがいかがか。</p>
産業経済部長	<p>全体の概算は把握しているが、イベントごとの数を掴むことによって効果や成果が見えてくると思うので検討していきたい。</p>
委員	<p>群馬大学の画像処理の先生と連携し、防犯カメラの通行人数をカウントすればできるのではないかと思う。</p>
会長	<p>カード決済については桐生市だと使えないお店が結構ある。市として実態調査を行うなど、カード決済へ向けての施策があるのか。</p>
産業経済部長	<p>キャッシュレスについては国が積極的に推進をしている。消費税増税に向けてできるだけ整備してほしいとのことで補助も考えている。キャッシュレス端末を導入する場合には国が2/3、事業者が1/3と事業者の負担が少ない形で導入できる。PRはしているが周知が十分でないと思うので徹底し、市内商店街の皆様にも導入していただきたいと考えている。</p>
会長	<p>ではこれで1章を終え、2章「健康・福祉の増進」に移りたい。</p>

②2章 健康・福祉の増進

・意見、質疑応答は以下のとおり。

会長	「2-1 子ども・子育て支援の充実」からご審議いただきたい。ご意見はあるか。
委員	「2. 子育て支援の充実」の目標指標に「待機児童数」があり基準値も目標値も0となっている。国としては問題になっていることであるが、待機児童0の桐生市が目標とするのはどうなのか。利用者の減少や園の統合により、待機児童が0でなくなる可能性があるということなのか。
子育て支援課長	待機児童数は現状0であり今後も大きく悪化するとは考えられないが、今般無償化等の影響もあり、長い将来に渡っては保育士不足が叫ばれている現状で厳しいところもある。
委員	黒保根代表として言うが、現在少子高齢化で子どもの人数が少なくなっている。黒保根の場合、人数が少ないからと廃止になるようなことはないと思うが、その辺の考えをお聞かせ願いたい。
子育て支援課長	黒保根地区については、他の保育園との距離を考えるとできるかぎり残していきたいと考えている。
会長	最初の目標指標「育児が楽しいと思える母親」の表現に違和感がある。逆にいうと10%は育児が楽しくないと思っているのか。本来育児は楽しいものだと考える。
子育て支援課長	昨今、一番問題となっているのは産後うつである。核家族化でワンオペといわれる母親一人での育児の中、辛い思いを一人で抱えている。児童虐待にも繋がる非常に難しい問題である。継続して楽しいと思える環境が大切である。10%については、リスクを抱えているご家庭が1割程度あることは間違いない。
会長	それはわかるのだが、この目標指標の表現では、母親と子どもの関係において「育児というものは楽しくない」と思ってしまった。本来、子どもに対する母親の感情は100%あるのではないか。育児においては苦しいこともたくさんあり、それが虐待に繋がるのはよくわかるが、この表現では、母親の子どもに対する愛情を10%は否定しているような感じを受ける。
子育て支援課長	表現については検討したい。育児が辛いと思っている数、問題を抱えている人数を減らすという表現の裏側である。
会長	それは十分理解している。
健康づくり課長	今の件については母親の愛情を否定するというものでは全くない。2017年の市民の声アンケートでこれを市民に問うており、88.8という数字が出

	ている。それを今後指標としていこうというものである。
委員	自分も子育て世代であるが、自分がトイレに行きたいときに抱えていると入れなくて困ることがある。女性用トイレには赤ちゃんを置いておくところがあるが、男性用トイレにはそういった場所がない。「3.子育て環境の充実」の目標指標に「赤ちゃんの駅の常設設置数」とあるが、最近言われるイクメンに対応した指標も是非入れていただきたい。
子育て支援課長	まずは女性用トイレから整備してきたが、おっしやるように父親と子どもの組み合わせもあるので、その点は今後考慮していきたい。
会長	では次に「2-2 介護・高齢者福祉の向上」に移りたい。いかがか。
	一同意見なし。
会長	特にご意見はないようなので「2-3 障がい者福祉の向上」に移りたい。ご意見はあるか。
委員	「2-2 介護・高齢者」でも同じかもしれないが、目標指標が市民アンケートの実感しかないが、もっと客観的指標はないか。例えば、高齢者や障がい者の外出率。家にこもっていないで外とどれくらい繋がっているかを既存のアンケートで把握しているようであれば、そういったアクティビティ調査結果を指標とできないか。外と積極的に関与できる、外出する時間を確保できるというのは生活向上に直結する指標と思うのだが、検討できないか。
長寿支援課長	高齢者が外へ出かける用事があり、そこで人と交流するということは大変重要であり、元気で長生きしていくにはかかせない要素である。そういった意味で「施策の方向 2. 社会参加と生きがいづくりの推進」の「シルバー人材センター会員数」では、生きがいを求めて働く人の数、「介護予防教室参加者数」では、自分の体のためを考えて教室に通うことで社会参加する人の数、という意味合いで指標として入れている。もっと広い意味での外出率ということになると通院なども含めてとなるが、生きがいを持ち本人の自立的な意思による外出の把握という意味でこの2つを入れた。
福祉課長	「2-3 障がい者福祉の向上」においては、「施策の方向 1. 障がい者支援の充実」の目標指標「障がい福祉サービスの利用状況」には外出支援サービスも含まれている。そこを住み分けしていくと数値が出てくる。また「2. 暮らしやすい環境づくりの推進」の目標指標「地域で生活する障がい者の割合」は、施設でなく地域で暮らせる支援体制の割合を見るということを入れている。
委員	目標指標2つ目の「地域生活支援事業の利用状況」目標値が2年ごとに大きく動くのはどうしてなのか。

福祉課長	「障がい福祉サービス」については国の制度であり誰でも利用できるが、「地域生活支援事業」は市単独事業で、地域に合わせたサービスを行うことができるものである。サービスの中に日常生活用具の補助も含まれており貸与年数の関係で利用に大きく変動がある。これまでの推移を加味してこのような目標値になっている。
事務局 (企画課長)	今の数値の件については再度確認をし、適切な数値を入れるか、あるいはこういう性質のものを指標にするのが適切かについても精査したい。
会長	では次に「2-4 地域福祉の向上」に移りたい。ご意見はあるか。 特にないようなので「2-5 生活支援・社会保障の充実」に移りたい。いかがか。
委員	この項と前の項のいくつかにおいて、総合戦略との絡みだと思うが、赤い重点マークがない。目標指標「食品の提供に関する協定締結数」については、今は生活困窮者への支援として子ども食堂の立ち上げなどの相談も多い。また施策の「子どもの居場所づくり」については、学校の不登校が原因となり40歳代以上の引きこもりへ繋がることもある。市や県全体で子どもの不登校は微増傾向にあり、どちらも大事であると考えている。黄色の重点マークでもいいので、このあたりにもう少し重点をおいてほしい。
企画課長	総合戦略は、「地方創生」「人口減少対策」に特化した戦略である。「子どもの居場所づくり」がその施策として重点項目かどうかは慎重に判断したい。
福祉課長	平成30年に学校を通して「子どもの実態調査」を実施した。その中で、子どもの学習支援や子ども食堂の需要については高い数値となっていた。それを受け、平成30年度から学習支援を行う団体へ補助金制度を設けた。今年度も子ども食堂への補助金制度導入について検討している。「子どもの居場所づくり」は重要であると考えており、今後も学校関係や子育て部門と連携し取り組んでいきたい。
会長	では次に「2-6 地域医療の充実」に移りたい。ご意見はあるか。
委員	診療時間外に家族が骨折して厚生病院に問い合わせたところ、当直医が専門外で処置できないと断られたため、他市の総合病院を受診した。交通事故や骨折などの緊急時に外科または整形外科を専門とする医師が1人はいないと救急医療に対応しにくい現状があるのではないかと伺いたい。
健康づくり課長	夜間の診療体制については、常勤医のみの対応では不十分なため、非常勤医などで補充しながら対応している。また、複数の救急車が来た場合には対応するのが難しい。そのような場合には、受け入れ可能な病院へ速やかに連絡し搬送している状況である。現状の医師確保については、群馬大学付属病院から3名の外科医を補充している。他科についても厚生病院か

	ら近隣の大学病院へ働きかけている。
会長	では次に「2-7 健康づくりの推進」に移りたい。いかがか。
	一同意見なし。
会長	特にご意見はないようなので、以上で2章を終わりとしたい。

### (3) その他

- ・事務局より、今後の予定について説明。
- ・意見、質疑応答は以下のとおり。

会長	新桐生駅のディスプレイについてご意見があった「中の商品は良いのに見せ方が悪い」というのは、観光でも言えることである。知人の話だが、親戚に群馬県内を一日案内するなら桐生が良いと言う。桐生は見るところがたくさんある。「良いものがあるのに見せ方が悪い」と考えたときに、何が悪いのか。実施計画が良くないのか。良いものがあるから良いではだめである。どう実施したらよいのか考えていかななくてはならない。
事務局 (鳥井副市長)	それについては実感しており、いろいろな切り口で観光に来ると思うが、それぞれの人の嗜好を踏まえて、ある程度ものを連携させたモデルコースを作り、例えばお昼にはまちの名物を食べて、歴史を感じられる街並みを歩き写真を撮って帰りたいとか、着物を着たいとか、染め物の体験をしたいとかあると思う。ジャンル別のコンテンツを用意し、例えば10時についてお昼を食べると・・・のように、ぱっと提示できるシステムがないとだめなのではないか。街中はそういったスポットも点在しているため、車で容易に繋げられるようなコースを考えていかないと、桐生は見るものがあるというが何があるかわからないとなってしまう。観光案内所もできるので体験と観光をコーディネートしてすぐ案内できるように話をしている。そういうことができないとおもてなしという点では不十分である。そこはきっちりこれからやっていきたい。
委員	前の総合観光ガイドの中にモデルコースがいくつかある。2時間・半日・1日のコースがある。今はネットで情報を得るので、これをネットに上げることで多くの人にお知らせできるのではないか。
副会長	そういったルートがホームページの中で「見たい」「食べたい」「体験したい」という括りの中で何コースか提示されて、そこにあるお店の紹介をしていけるようなコンテンツがあれば良いと思う。
会長	観光交流課と国際交流協会が出しているパンフレットを見たが全部総花である。あれを見たのではどこに行ったらよいかわからない。「ここだ」というものを強引にでもルートを決めて提示すれば、きっと来られた人は喜ぶと思う。そういった方向のことを是非考えていただきたい。

5 その他

- ・事務局より、次回の開催日程について事務連絡。

6 閉会 [ 終了：午後4時25分 ]